

第4章

みどりあふれる持続可能なエコタウン



● 現状と課題（配慮すべき社会情勢）

東日本大震災を機に、エネルギーの安定供給が問題となり、エネルギーの自立化、分散化、多様化の取り組みが課題となっています。

また、本市においては、都市化の進行に伴い、里山^{*}のみどりは徐々に失われています。そのため、市の象徴である都市部の近郊にある豊かなみどりを次世代の子どもたちに引き継いでいく必要があります。

一方、日常生活や事業活動から排出されるごみは、その処理において様々な問題が発生しています。そのため、市民・事業者・市が一体となって、ごみを出さない行動を意識し、減量と資源化に努める必要があります。

● 施策の方向性

再生可能エネルギーを積極的に導入し、省エネ行動を推進することにより、低炭素社会を構築していくとともに、自然と共生できるみどり豊かなまちと心豊かな暮らしを未来の子どもたちに引き継いでいくため、みどりの保全を積極的に進めます。

また、3R^{*}を積極的に推進し、循環型社会^{*}の形成に努めます。

これら環境分野と教育、福祉、健康や産業などが有機的につながり、持続可能なまちづくりを進めます。

施策体系

第4章

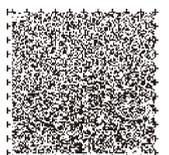
みどりあふれる持続可能なエコタウン

第1節	低炭素社会
第2節	みどり・生物
第3節	循環型社会
第4節	大気・水環境等

^{*}里山…人の活動によりつくられた農地、二次林、人工林、草原などで構成される地域で、里地里山とも呼ばれる。循環型の資源利用により、特有の生態系が育まれ、自然と調和した生活が営まれてきた。

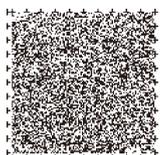
^{*}3R…リデュース（reduce ごみの発生・排出抑制）、リユース（reuse 再使用）、リサイクル（recycle 再生利用）の頭文字をとった言葉。循環型社会を形成するための重要なキーワードであり、考え方。

^{*}循環型社会…廃棄物の発生を抑え（リデュース）、使用済製品がリユース・リサイクル・熱回収等により適正かつ循環的に利用され、その他については適正処分されることによって、天然資源の消費を抑え、環境負荷をできる限り少なくする社会。



分野別の主な計画

計画名	計画期間	計画概要
所沢市マチごとエコタウン推進計画 (第3期所沢市環境基本計画) (環境政策課)	令和元(2019)年度～ 令和10(2028)年度の10年	所沢市環境基本条例に基づき、本市の環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画です。本計画では、世界的な目標であるSDGsとの関係も記述しています。
所沢市地球温暖化対策実行計画 (環境政策課)	令和元(2019)年度～ 令和10(2028)年度の10年	地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、本市の地球温暖化対策を具体的に推進するための計画です。なお、本計画は「所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)」に内包しています。
所沢市環境教育等に関する行動計画 (環境政策課)	令和元(2019)年度～ 令和10(2028)年度の10年	環境教育等による環境保全の取り組みの促進に関する法律に基づき、本市の環境保全活動の意欲の増進や環境教育・協働取り組みの推進に関する行動等を推進するための計画です。なお、本計画は「所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)」に内包しています。
第三次不老川生活排水対策推進計画 (環境対策課)	平成29(2017)年度～	不老川の更なる水質改善をめざして、平成29年3月に流域4市(所沢市、川越市、狭山市、入間市)で策定した計画です。
所沢市みどりの基本計画 (みどり自然課)	令和元(2019)年度～ 令和10(2028)年度の10年	都市計画区域内におけるみどりとオープンスペースの保全・創出に関する総合的な計画です。
公共施設緑化ガイドライン みどり つなぐまち 所沢 (みどり自然課)	平成24(2012)年度～	公共公益施設の緑化指針で、緑化基準、緑化方法、維持管理、植栽候補種の選定、緑化協議などを定めたものです。
所沢市一般廃棄物処理基本計画 (資源循環推進課)	平成27(2015)年度～ 令和11(2029)年度の15年	循環型社会の形成をめざして計画的に廃棄物を処理するため、廃棄物の排出抑制及び発生から処分に至るまでの廃棄物の適正処理について定めた計画です。



1

低炭素社会



現状・これまでの主な取り組み

- 公共施設等に太陽光発電設備を設置するとともに、市民や事業者などへの太陽光発電設備等の普及に努め、市域における再生可能エネルギー利用量の向上を図っています。
- 市域の温室効果ガス排出量の削減のため、市が管理するすべての道路照明灯や各地域の防犯灯のLED化を図りました。さらに、埼玉県と共同で「埼玉エコタウンプロジェクト[※]」に取り組み、対象地区における住宅のスマートハウス[※]化を推進しました。
- 創エネ・省エネ機器を安価で安心したプランで提供する「マチエコ応援隊[※]」を組織し、創エネ・省エネ機器の導入を後押ししています。
- 次世代を担う子どもたちに対して、学校生活や家庭生活を通じた環境学習を行うとともに、地域の環境推進活動を進め、環境配慮行動の普及を図っています。
- 河川、水路の氾濫防止や地下水のかん養[※]を図るため、開発事業者等に対して雨水浸透施設[※]の設置を指導しました。



屋根貸しによる太陽光発電設備



キャンドルナイト

※埼玉エコタウンプロジェクト…創エネ、省エネ、蓄エネ設備等の導入を推進し、街区全体のエコタウン化を図る埼玉県のプロジェクト。

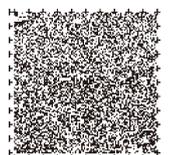
所沢市では松が丘地区が重点実施街区に選ばれて、平成27年度から3年間実施した。

※スマートハウス…太陽光発電設備やエネルギーマネジメントシステムの導入や断熱性能・省エネ性能を向上させることで、エネルギーの自活やCO₂排出削減を実現する住宅。

※マチエコ応援隊…既存住宅のスマートハウス化を図るため、創エネ等の機器メーカー及び市内施工業者のペアが市と協働して創エネ機器等の導入を推進するために組織された団体。

※地下水のかん養…雨水や河川の水などが地下に浸透し、地下水が保持、補給されること。

※雨水浸透施設…雨水を地中に浸透させるためのますや管（トレンチ）のこと。



課題

- 市域における温室効果ガス排出量を削減していくため、創エネ・省エネの取り組みを継続することが必要です。
- 環境配慮行動を市域全体に波及させていくことが必要です。
- 地球温暖化に起因する、近年の台風やゲリラ豪雨は、今後も市内に深刻な被害をもたらす恐れがあるため、日頃から水害に備える防災・減災意識の共有を図りつつ、埼玉県等と連携して総合的な治水対策^{*}を進める必要があります。

評価指標

指標名	単位	現状	年度別目標					
			H28	R元	R2	R3	R4	R5
市域における温室効果ガス排出量の削減率	%	4.8	7.6	9.3	11.0	12.7	14.4	16.1

地球温暖化対策の効果を示す指標です。

現状 「所沢市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に掲げる目標で、平成25年度を基準年度とした温室効果ガス排出量の平成28年度の削減割合です。

目標 令和6年度までに16.1%の削減をめざすものです。

基本方針

[4-1-1] 地球温暖化緩和策の推進

地球温暖化対策を推進するため、温室効果ガス排出量の削減に向けて、各分野における緩和策の取り組みを推進します。

[4-1-2] エネルギー使用に伴う環境負荷の低減

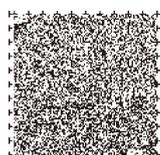
低炭素社会の構築に向け、エネルギー消費を削減するため、再生可能エネルギーの利用を推進するとともに、省エネルギーの推進を図るなど、低炭素型のライフスタイルの定着に取り組みます。

[4-1-3] 気候変動の影響への適応

気候変動への影響に対応するために必要な情報の提供を推進します。

また、水害に備えた適応策として埼玉県と連携した河川整備などの総合治水対策を促進します。

^{*}治水対策…大雨により、河川の氾濫や下水道の雨水排水能力を超えることで発生する建物や道路、土地の浸水被害を防ぐための対策。河川改修や調節池の整備、雨水の流出抑制などがある。



事業目標

基本方針	4-1-1	単位	現状	年度別目標				
市の事務事業から発生する温室効果ガスの削減率	%	H28	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
		15.2	20.2	21.9	23.6	25.2	26.9	28.6

市の事務事業から発生する温室効果ガスに関して、市の率先取組による削減状況を示す指標です。

現状 平成28年度における、平成25年度基準年度とした温室効果ガスの削減割合です。

目標 令和6年度までに28.6%をめざすものです。

基本方針	4-1-2	単位	現状	年度別目標				
市域における再生可能エネルギー設備の総出力	MW	H28	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
		33.6	36.6	37.8	39.0	40.2	41.4	42.6

市内に設置されている太陽光発電システム等の再生可能エネルギー設備の総出力を示す指標です。(国の統計値を用いた推計値)

現状 平成28年度末の、資源エネルギー庁が公表している「B表 市町村別認定・導入量」における再生可能エネルギー設備の導入容量です。

目標 令和6年度までに42.6MWをめざすものです。

基本方針	4-1-3	単位	現状	年度別目標				
雨水流出抑制指導による施設の設置割合	%	H29	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
		100	100	100	100	100	100	100

河川・水路の氾濫防止や地下水のかん養を図る取り組み状況を示す指標です。

現状 平成29年度の開発時における雨水流出抑制指導により、施設を設置した事業者の割合です。

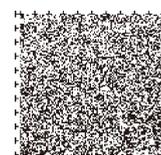
目標 毎年度100%をめざすものです。



地域新電力事業に係る包括連携協定



出前講座



2

みどり・生物



現状・これまでの主な取り組み

- 里山保全地域[※]等の指定制度やみどりのパートナー制度[※]などを活用し、みどりを保全しています。
- 本市の豊かなみどりを散策する「みどりのふれあいウォーク」や「みどりのカーテンコンテスト」を実施するなど、みどりに関する取り組みへの参加を推進しています。
- 保存樹木[※]等の維持管理を支援することで、まちなかのみどりを保全するとともに、みどりのパートナーの地域緑化活動などにより、まちなかのみどりを創出しています。
- 都市の中にみどりとオープンスペース[※]を確保するため、コミュニティの拠点となる街区公園[※]の整備などを行っています。
- 市民が自然観察や散策により身近な自然と触れ合える公園として、所沢カルチャーパーク[※]の施設整備及び用地取得を行っています。
- 「所沢市水辺のサポーター制度[※]」による快適な水辺環境の維持・保全や、「所沢市ふるさとの川再生事業[※]」により多様な生物が生息し、自然が豊かな川を再生する活動を市民との協働により進めています。
- 有害鳥獣にかかる捕獲許可、外来生物による生態系への影響防止のための啓発及び駆除を行っています。



「有害鳥獣・外来生物」

人々の生活、農作物や生態系に被害を及ぼす野生鳥獣を有害鳥獣と呼んでいます。

市内では、アライグマ、ハクビシン、タヌキ等の小動物やドバト、カラス、ムクドリ等野鳥による被害による相談が多数寄せられています。

外来生物は、人の活用によって本来の分布域の外の国や地域から導入された生物種のことをいいます。中でも、特に被害を及ぼす恐れのある148種類が外来生物法により「特定外来生物」に指定され、輸入や飼育・栽培、運搬等が規制されています。

埼玉県内では、アライグマやカミツキガメによる被害増加が懸念されています。

被害を広げないために、ペットは最後まで責任を持って飼うなど、「**入れない、捨てない、拡げない**」の3つの原則を守ることが大切です。

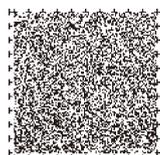


アライグマ



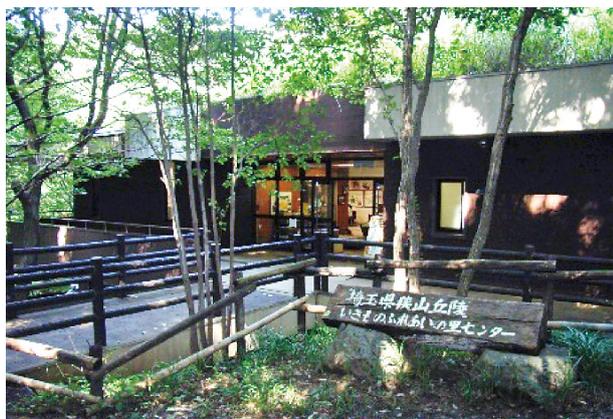
カミツキガメ

※里山保全地域…地域制緑地の一つ。指定された地域では行為の届出が義務付けられるなど、みどりの保全措置が講じられる。
 ※みどりのパートナー制度…自発的かつ実践的な活動を行う個人又は団体を「みどりのパートナー」として登録し、活動場所や緑化資材の提供等を通じて、市民によるみどりの保全や緑化の活動を支援する制度。
 ※保存樹木…市街化区域及びその周辺地域において、良好な都市環境を維持するために指定する樹木。
 ※オープンスペース…公園や広場、運動場、水面など、建物に覆われていない土地や敷地内の空地の総称。
 ※街区公園…主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園。
 ※所沢カルチャーパーク…樹林地の保全を図り、市民が自然観察や散策により、身近な自然とふれあう場となる自然環境保全型の総合公園。
 ※所沢市水辺のサポーター制度…所沢市が管理する河川・水路において、ボランティアで清掃美化活動を行う市民団体等と市が協力して、快適な水辺環境の維持・保全を図る制度。
 ※所沢市ふるさとの川再生事業…淡水生物（タナゴなど）が戻ってくるような自然再生、多自然川づくりをめざし、設計段階から市民団体と市が協働で計画して、その後、市が川を整備し、市民団体が維持管理等を行う事業。



課題

- 緑地の適切な維持管理や、保存樹木等の維持管理の支援が必要となります。
- 街区公園などの身近な公園については、地域バランスを図る必要があります。
- 市民との協働による「所沢市ふるさとの川再生事業」や、「所沢市水辺のサポーター制度」の活動団体について、加入団体を増やすことや、高齢化、後継者不足を改善していく必要があります。
- 人と自然との共生を図るため、外来生物・有害鳥獣対策の充実が求められています。
- 所沢カルチャーパークは、早期完成に向け、整備を進めていくと共に、利用促進と市民協働による樹林地の管理を推進していく必要があります。



埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター



所沢カルチャーパーク

評価指標

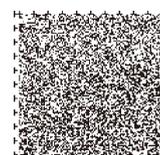
指標名	単位	現状	年度別目標					
			R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
新たなみどりの確保量	ha	H29	75.00	80.00	85.00	90.00	95.00	98.00
			55.07					

みどりを新たに確保する取り組みの成果を測る指標です。

現状 平成29年度の「所沢すみどりの基本計画」に規定する地域制緑地^{*}を新規指定・拡大をした累計の面積です。

目標 令和6年度までに98.00haをめざすものです。

※地域制緑地…樹林などの自然環境を保全するため、法律や条例等の制度にもとづき、土地利用の規制地域として指定する緑地の総称。



基本方針

[4-2-1] 生物多様性^{*}への理解の推進

市民、関係団体などによる取り組みを通して、生物多様性への理解を促す取り組みを進めます。

[4-2-2] 人と自然との絆の強化

自然との共生を図るため、豊かなみどりを守り育てる活動を推進します。また、野生生物の生息・生育環境の保全に努め、生態系への影響を低減するため、外来生物・有害鳥獣対策を推進し、良好な生態系の保全に取り組みます。

[4-2-3] みどりと水の保全

貴重なみどりの保全を行うとともに、地域の特性を活かした公園整備を進め、まちなかなどのみどりを創出します。

また、生きものの棲む河川の整備や市民との協働による活動を進めるなど、河川や湿地の保全に取り組みます。

さらに、多くの人たちが豊かなみどりの恵みを享受できるよう、広域的に河川や緑地につながる「水とみどりがつくるネットワーク」の構築を進めます。

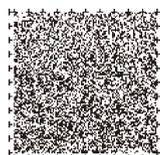


みどりのふれあいウォーク



比良の丘

^{*}生物多様性…あらゆる生物種の多さ（種の多様性）と、それにより成り立つ豊かな生態系やそのバランスした状態（生態系の多様性）、さらに、生物が過去から未来へと伝える遺伝情報の多さ（遺伝子の多様性）までを含めた広い概念。



事業目標

基本方針	4-2-1	単位	現状	年度別目標				
みどりとふれあうイベントの参加者数	人	H29	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
		1,767	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000

みどりとふれあうイベントの参加者数を示す指標です。

現状 平成29年度のみどりのふれあいウォークの参加者数です。

目標 毎年度2,000人以上をめざすものです。

基本方針	4-2-2	単位	現状	年度別目標				
みどりのパートナーの登録者数	人	H29	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
		1,368	1,395	1,400	1,405	1,410	1,415	1,420

みどりの保全・創出を目的にした「みどりのパートナー制度」の登録者数を示す指標です。

現状 平成29年度のみどりのパートナー制度に登録した個人及び団体の構成員の人数です。

目標 令和6年度までに1,420人をめざすものです。

基本方針	4-2-3	単位	現状	年度別目標				
水辺のサポーター・ふるさとの川再生事業団体数	団体	H29	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
		8	8	8	9	9	9	10

河川・水路機能充実に対する取り組み状況を示す指標です。

現状 平成29年度における河川の清掃等のボランティア活動を行う市民団体数です。

目標 令和6年度までに10団体をめざすものです。

基本方針	4-2-3	単位	現状	年度別目標				
都市公園*の整備面積	ha	H29	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
		141.19	142.41	143.14	144.22	145.24	146.16	148.02

公園の整備状況を示す指標です。

現状 平成29年度末における都市公園の面積です。

目標 令和6年度末までに整備面積148.02haをめざすものです。

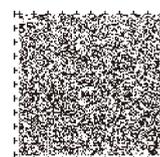


柳瀬川源流（上山口・大鐘橋付近）



樹林（くめぎ山・駒ヶ原の森）

※都市公園…都市公園法に基づく公園または緑地。



3 循環型社会



現状・これまでの主な取り組み

- 「食品ロス[※]ゼロのまち協力店登録制度」を創設するとともに、古着・古布の集積所収集を開始、さらには集団資源回収[※]事業の見直しによりごみの減量・資源化を図っています。
- 生ごみ処理機器等に対する導入を後押しするため、制度を見直すなど生ごみ減量の取り組みを進めています。
- リサイクルふれあい館における各種講座や“エコロまつり[※]”、“エコロ市[※]”などのイベント、東西クリーンセンターでの“もったいない市”などを開催し、3Rに関する啓発事業を実施しています。
- 焼却処理施設の更新及び新たな最終処分場[※]の整備計画を進めています。
- 東西クリーンセンターの長期包括運営業務委託[※]を実施し、安全で効率的なごみ処理施設の運営を進めています。



エコロ市



食品ロスゼロのまち協力店ステッカー

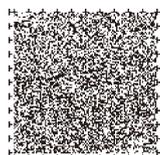
※食品ロス…まだ食べられるにもかかわらず廃棄される食品。

※集団資源回収…自治会・町内会・子ども会などの団体が、地域内の自主的活動として、各家庭の協力により古紙・古布・飲料用のかんやびん等を、回収日を決めて一定の場所に集め、市に登録している回収業者に引き渡す制度。

※エコロまつり・エコロ市…循環型社会の形成に向けたごみ減量・リサイクルを中心とする環境教育のための学習施設であるリサイクルふれあい館「エコロ」で実施しているイベント。毎年5月に開催するものを「エコロまつり」、11月に開催するものを「エコロ市」と呼び、それぞれリユース・リサイクルの啓発・推進に関する様々な催しを実施している。

※最終処分場…ごみを燃やした後に残った灰、破碎ごみ類や容器包装プラスチックを処理した後に残ったごみなどを埋め立てする場所。

※長期包括運営業務委託…施設の運転管理・用役調達管理・維持補修等の運営業務を長期にわたり、包括的に民間業者に運営委託すること。



課題

- ごみの減量と資源化をより一層進めるため、集団資源回収や分別収集、食品ロス削減に向けた取り組みを実施するとともに、リサイクルふれあい館などが実施するイベント・講座を通して『もったいないの心』の醸成を図る必要があります。
- 家庭ごみの収集運搬業務の委託割合を拡大し、安定した収集運搬体制の維持に努める必要があります。
- （仮称）第2一般廃棄物最終処分場^{*}の整備に向け、用地買収を進める等、事業の推進を図る必要があります。
- 不法投棄及び資源物の持ち去りについて、引き続き監視・啓発を行うことが必要です。

評価指標

指標名	単位	現状	年度別目標					
			R元	R2	R3	R4	R5	R6
市民1人1日あたりのごみの排出量	g/人・日	H29 580.0	579.3	578.5	577.8	577.1	576.4	575.6

市民1人1日当たりのごみの排出量を測る指標です。

現状 平成29年度の年間総ごみ量から、事業活動から出るごみや集団資源回収されたものを除き、市の人口で除して算出した排出量です。

目標 令和6年度までに575.6g/人・日をめざすものです。

基本方針

〔4-3-1〕 『もったいない』社会の形成

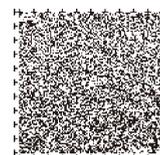
ごみを出さないリデュース、物を繰り返し使うリユース、資源の再利用を図るリサイクルの推進など、ごみの発生と排出抑制に取り組みます。

〔4-3-2〕 ごみ処理の低炭素化の推進

未利用エネルギー^{*}の活用や省エネ・創エネを図ることで、ごみ処理に要するエネルギー消費の低減に取り組みます。

※（仮称）第2一般廃棄物最終処分場…市内で最初の一般廃棄物最終処分場である北野一般廃棄物最終処分場の埋立てが平成17年3月に終了したことから、自区内処理の原則に基づき、関越自動車道所沢インターチェンジ北側で建設を予定している市内で2つ目となる一般廃棄物最終処分場。なお、地元のご協力をいただき、愛称が「（仮称）やなせみどりの丘」に決定。

※未利用エネルギー…ごみ焼却時の排熱等、有効に利用できる可能性があるものの、これまで利用されてこなかったエネルギーの総称。



[4-3-3] ごみの適正な処理の推進

不法投棄の防止やごみの分別を徹底するとともに、安定した収集運搬体制の維持に努めます。

また、ごみ処理施設及びし尿処理施設^{*}についても安定した維持管理を行うとともに、最終処分場の整備を進め、適正なごみ処理を進めます。

事業目標

基本方針	4-3-1	単位	現状	年度別目標					
総ごみ量に対するリサイクル率		%	H29	R元	R2	R3	R4	R5	R6
			28.9	29.9	30.4	30.9	31.4	31.9	32.4

ごみの資源化に対する取り組み状況を示す指標です。

現状 平成29年度における市民・事業者から排出される全ごみ量のうち、紙類、古布類、鉄・アルミなどを資源化させることができた割合です。

目標 令和6年度までに32.4%をめざすものです。

基本方針	4-3-2	単位	現状	年度別目標					
ごみ焼却発電による場内電気使用量賄率		%	H29	R元	R2	R3	R4	R5	R6
			73.83	89.78	100	100	100	100	100

東部クリーンセンターにおける、ごみ焼却で得られた電気の場内電気使用量に対する割合を示す指標です。

現状 平成29年度の発電機からの電気で賄っている場内電気使用量の割合です。

目標 令和2年度までに100%をめざすものです。

基本方針	4-3-3	単位	現状	年度別目標					
不法投棄物量		t	H29	R元	R2	R3	R4	R5	R6
			26.0	25.2	24.8	24.4	24.0	23.6	23.2

市で撤去した不法投棄物量を基に、相対的な不法投棄防止対策に関する取り組みの成果を測る指標です。

現状 平成29年度における、市で撤去した不法投棄物量です。

目標 令和6年度の不法投棄物量において、現状の1割以上の削減をめざすものです。



食品ロス削減にご協力ください。

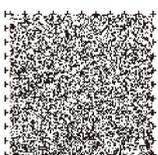
日本で発生する食品ロスは年間646万トンと言われており、所沢市においても、年間1万7千トン発生していると推計され、その約半分が家庭から発生していると言われています。

食品ロスを減らすためには、市民一人一人が

- ① 買い物は、必要なものを、必要な分だけ購入する
 - ② 料理では、野菜の皮や茎などを捨てないような工夫をする
 - ③ 食事は、残さず食べるようにし、外食では、食べきれぬ量だけ注文する
- といった意識を持つことが重要です。



所沢市では、食材を余さず利用する「トコとん!!クッキング」の紹介、食べきりサイズの提供や持ち帰りを推奨する「食品ロスゼロのまち協力店」制度、宴会のお開き15分前を「食べきりタイム」として、食べ残しを減らす呼びかけを行う、等の取り組みを行っています。



^{*}し尿処理施設…公共下水道未整備区域等で発生するし尿及び浄化槽汚泥について、市民の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に支障が生じないように、適正に処理する施設。

4

大気・水環境等



現状・これまでの主な取り組み

- 大気環境や河川、地下水の水質汚濁の状況を監視、測定するとともに、発生源となりうる事業所への立入検査や指導等を行っています。
- 土壌汚染対策や土砂のたい積規制等を行うとともに、騒音・振動・悪臭等の公害苦情相談を実施し、早期解決に努めました。
- 放射性物質[※]による環境へのリスクに対応するため、監視・相談業務を行っています。
- 歩きたばこ等の迷惑行為の防止、狂犬病の予防や衛生害虫[※]駆除などの衛生対策及び「環境美化の日」一斉美化清掃活動などの市民が参加する地域美化活動を推進しています。
- 河川・水路周辺の生活環境の保全と排水機能を保持するため、河川・水路敷の清掃、除草、護岸の修繕等を実施し、適切な維持管理に努めています。

課題

- 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等の未然防止に努め、更なる生活環境の保全と改善を図る必要があります。
- アスベストの飛散防止を徹底するため、建築物の解体作業時の監視、指導に努める必要があります。
- 騒音・振動・悪臭等の公害苦情相談を実施し、早期解決に努める必要があります。
- 衛生的で快適な生活環境を確保することが求められています。
- 河川・水路の護岸等は、経年による劣化が進み、大雨による被害や部分的な修繕が増加しています。

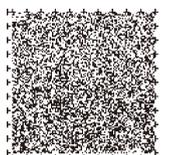


環境美化の日



河川・水路等の清掃活動

※衛生害虫…人に衛生的な害を与える昆虫やダニ類の総称。
※放射性物質…放射能を持つ物質の総称。



評価指標

指標名	単位	現状	年度別目標					
			R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
大気環境にかかる環境基準の達成率	%	H29	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
		86.4	88.6	90.9	93.1	95.4	97.7	100

大気環境の状況を示す指標です。

現状 平成29年度における、光化学オキシダント^{*}や二酸化窒素等の大気汚染物質にかかる環境基準を達成している割合です。

目標 令和6年度までに100%をめざすものです。

基本方針

[4-4-1] 大気環境の保全

大気環境状況を監視・測定するとともに、事業所への立入検査・指導などの発生源対策を推進し、大気環境の保全に取り組みます。



河川（高橋交差点付近）

[4-4-2] 水環境等の保全

河川や地下水の水質汚濁の状況を監視し、工場・事業所の排水や生活排水の適正処理の推進に取り組みます。また、開発時の指導等により保水機能を向上させ地下水のかん養を図るとともに、河川・水路の排水機能の充実に取り組みます。

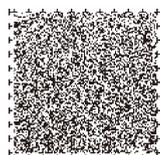


採水の様子

[4-4-3] 土壌・地盤環境の保全

有害物質等による土壌汚染対策を推進するとともに、地盤沈下を防止するため、緑地のもつ保水機能の活用や雨水浸透施設の設置など地下水かん養に取り組みます。

^{*}光化学オキシダント…光化学スモッグの指標とされている物質



[4-4-4] 生活環境対策の推進

事業活動や家庭生活から発生する騒音・振動・悪臭を防止するため、事業者への指導や個人の意識向上を図るとともに、ヒートアイランド[※]対策などに取り組みます。

また、狂犬病予防・衛生害虫駆除などの環境衛生対策や地域美化活動などを推進し、生活環境の向上、改善を図ります。

[4-4-5] 化学物質の環境リスクの管理

事業者による化学物質の自主的な管理を促進するとともに、市内の排出量を公表するなど管理の徹底を図ります。

また、廃棄物焼却炉等に対する規制・指導などによりダイオキシン類対策を推進するとともに、空間放射線量の測定を行い、情報提供を図ります。

事業目標

基本方針	4-4-1	単位	現状	年度別目標					
大気規制対象事業所のばい煙にかかる排出基準適合率	%	H29	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
		100	100	100	100	100	100	100	

大気規制対象事業所のうち、排出基準等に適合した事業所の割合を示す指標です。

現状 平成29年度の大気規制対象事業所のうち、排出基準等に適合した事業所の割合です。

目標 毎年度100%達成・維持をめざすものです。

基本方針	4-4-2	単位	現状	年度別目標					
水環境にかかる環境管理目標の達成率	%	H29	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
		100	100	100	100	100	100	100	

生物化学的酸素要求量[※]やカドミウム[※]等の水質汚濁にかかる環境管理目標のうち、目標を達成しているものの割合を示す指標です。

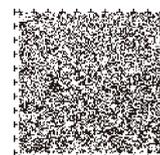
現状 平成29年度の公共用水域の常時監視事業の結果において目標を達成しているものの割合です。

目標 毎年度100%達成・維持をめざすものです。

※ヒートアイランド…都市の気温が、周囲よりも高くなる現象。

※生物化学的酸素要求量…「BOD」という略称が使われることが多い。河川水や工場排水等の汚濁の程度を示す代表的な指標のひとつで、水中の有機物質が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量。BODの値が大きいほど水中の有機物質が多く、水が汚れているといえる。

※カドミウム…青みを帯びた銀白色の金属で、柔らかく、延性及び展性に富み、メッキ、顔料、電池等に使用されている。カドミウムはイタイタイ病の原因として知られているほか、吸入、経口摂取が続くと胃腸炎、筋肉痛、着色尿、肝臓障害等が現れるといわれている。



基本方針	4-4-3	単位	現状	年度別目標					
汚染拡散防止率	%	H29	R元	R2	R3	R4	R5	R6	
		87	89	91	93	95	97	100	

土壌汚染防止のため、対象事業所のうち汚染拡散防止措置等が実施された割合を示す指標です。

現状 平成29年度の土壌汚染が判明した事業のうち、汚染拡散防止措置等が実施されている事業所の割合です。

目標 令和6年度までに100%をめざすものです。

基本方針	4-4-4	単位	現状	年度別目標					
苦情相談解決率	%	H29	R元	R2	R3	R4	R5	R6	
		93.2	93.5	93.8	94.1	94.4	94.7	95	

公害等について寄せられた苦情・相談解決率を示す指標です。

現状 平成29年度の騒音・振動等にかかる苦情相談解決率です。

目標 令和6年度までに95%をめざすものです。

基本方針	4-4-5	単位	現状	年度別目標					
化学物質排出量	t	H29	R元	R2	R3	R4	R5	R6	
		26.5	26.2	26.0	25.8	25.6	25.3	25.1	

市域における化学物質排出量を示す指標です。

現状 平成29年度に報告があったPRTR^{*}届出データの化学物質排出量です。

目標 令和6年度までに現状値の5%減をめざすものです。



～今、海を漂うプラスチックのごみが世界的に問題になっています!!～

私たち人間が使ったレジ袋やペットボトルなどのプラスチック製品が、川などを通じて海に流れ出し、海の環境や動物に影響を与えています。世界中の国々で、現在のペースで「海洋プラスチックごみ」が発生すれば、2050年までに魚の重量を上回るとも言われています。

こうした問題の解決に向けては、世界各国の個人・企業・行政などのあらゆる主体が、それぞれの立場で取り組みを行うことが重要です。

2018年12月、所沢市においても、マチごと、プラスチックごみの削減に取り組むことを宣言しました。

未来の子どもたちに美しい所沢のまち、川、海を残せるよう、力を合わせましょう。



(左写真) 日本の海岸にごみが散乱している様子。
出典：環境省 平成29年度漂着ごみ対策総合検討業務 海洋ごみ学習用教材小中学生用より抜粋



(右写真) ハワイの海岸。日本から流れ着いたプラスチック容器が海岸を汚している。
出典：NOAA アメリカ海洋大気局

^{*}PRTR…「Pollutant Release and Transfer Register」の略称。環境汚染の恐れのある化学物質が、どのような発生源から、どの程度環境中に排出されているのか、また、廃棄物となっているか、というデータを把握し、国で集計して公表する仕組み。

